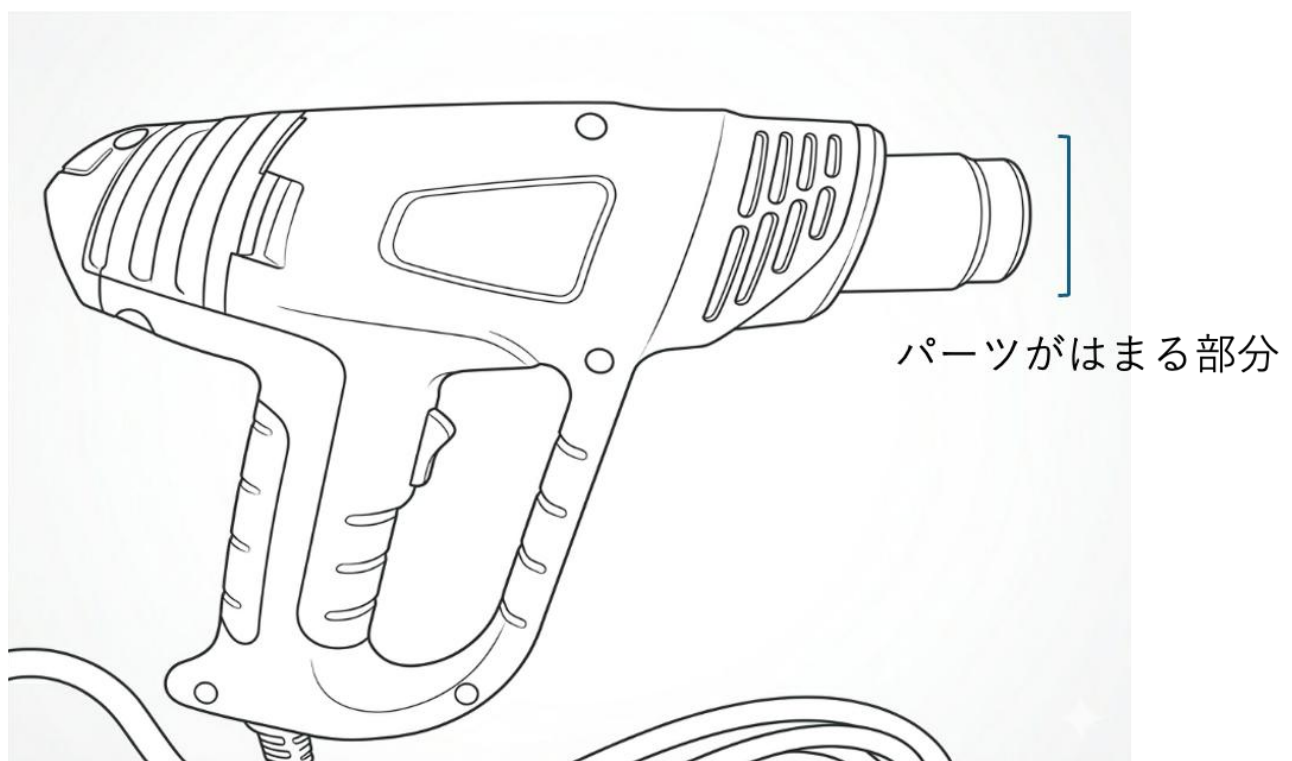


Injury Alert (傷害速報)類似事例

ヒートガンパーツによる右示指ターニケット症候群（No.68 玩具による指ターニケット症候群の類似症例 4）㊦

事例	基本情報	年齢：3 歳 11 か月 性別：男児 体重：15kg 身長：108cm
	家族構成	父、母、兄 1 人、姉 2 人、本児
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		右示指ターニケット症候群
医 療 費		入院 154,680 円 外来 3,760 円
原因対象	対象名称	ヒートガン（図 1）のパーツである丸ノズル（ステンレス鋼製）
	入手経路 使用状況	ヒートガン本体は父の仕事場（リフォーム業）にあり、パーツは仕事では使用しなかったため自宅に置いてあった。ヒートガンは物に熱を与えて曲げ伸ばすために使用していた。パーツは普段、子どもの手が届かない場所に置くが、今回、母が探し物をした際に子どもの手に届く棚にパーツを置き、戻し忘れた。本児がパーツに触るのは受傷日が初めてだった。
発生状況	発生場所	自宅のリビング
	周囲の人 周囲の環境	自宅リビングの座椅子で本児が遊んでいた。母が高さ 1m 弱の棚に梱包されていない状態のヒートガンのパーツを置いていた。
	発生年月日	2026 年 3 月 X 日（火） 午後 9 時 0 分頃
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	自宅リビングで家族 6 人夕食を食べていた。本児が一番早く食べ終わり、午後 8 時 50 分頃から家族のそばで 1 人遊んでいた。ヒートガンのパーツである丸ノズルを指にはめて遊んでいた。右示指の付け根から第 2 関節までの間（基節部）で丸ノズルが取れなくなり（図 2-1、2）、午後 9 時 0 分頃、本児が母親に報告した。父親が、石鹼や油性潤滑剤を垂らして外そうと試みるも外せず、医療機関を受診した。

医療機関受診時 以降の治療経過 転帰	受診時、右示指の付け根から第2関節までの間（基節部）に丸ノズルの細い側（内径13mm）がはまっていた。右示指のCRTは1秒で、丸ノズルがはまった部分より末梢側は温かく、触覚あり、PIP関節、DIP関節の自動運動は可能だった。局所麻酔薬ゼリーを塗布して捻りながら抜去を試みたが困難であった。右示指を指神経ブロック後に、再度抜去を試みたが抜去できなかった。本児に鎮静をかけたうえで、リングカッターで丸ノズルに2箇所亀裂を入れ、ペンチで中央部を曲げる形で抜去した。はまりこんでいた丸ノズルの内面は返しがついていて、先が鋭利になっていた（図3）。抜去後、右示指には全周性にMP関節とPIP関節の間で表皮剥離を認めた（図4）。鎮静後の経過観察目的に入院し、X+1日、覚醒が良好なことを確認後に退院とした。X+3日に再診し、右示指の全周性にびらん、一部潰瘍を認めた。洗浄後にハイドロコロイド製剤を創部に貼付し、自宅でも同様の処置を継続した。X+7日の再診時には右示指の上皮化が進んでおり、X+14日には上皮化が完了していたため終診とした（図5）。
キーワード	指ターニケット症候群、ヒートガンパーツ、環状異物除去



AIにより作成

図1 ヒートガン



図 2-1 受診時の状況。右示指に丸ノズルがはまりこんでいる様子（側面）。PIP 関節近位部に腫脹、根元に線状の挫傷みられる。



図 2-2 右示指に丸ノズル（内径 13mm）がはまりこんでいる様子（正面）。



図 3 抜去後の丸ノズル。はまりこんでいた丸ノズル内面は返しがついていて、先が鋭になっていた。



図4 丸ノズルを抜去した直後。右示指 MP 関節と PIP 関節の間に全周性の表皮剥離認める。



図 5 X+14 日再診時。右示指 MP 関節と PIP 関節の間の創部が完全に上皮化している。